

第4学年国語科学習指導案

日時 平成20年11月12日(水) 6校時
児童 4年A組 男20名 女11名 計31名
指導者 安保 小枝子

1 単元名 材料の選び方を考えよう

2 教材名 「アップとルーズで伝える」「四年三組から発信します」(光村4年下)

3 単元の指導目標

【関心・意欲・態度】伝えたいことと伝える方法について興味をもち、適切に表現しようとする。

【書くこと】 題材について必要な事柄を取材し、相手に応じて分かりやすく書いて知らせる。

【読むこと】 「アップ」と「ルーズ」の特徴をまとめ、段落相互の関係を考えながら読む。

【言語事項】 文章全体における段落の役割を理解する。

4 単元について

中学年の読むことの目標は③「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」である。本単元では、イ「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと。」オ「目的に応じて内容を大きくまとめたり必要なところは細かい点に注意したりしながら文章を読むこと。」と深く関わっている。

本単元は「アップとルーズで伝える」と「四年三組から発信します」の二教材で構成される。

「アップとルーズで伝える」では私たちが最もよく目にしていくメディアであるテレビの映像技法を中心に述べている。テレビや新聞などを通して私たちに届けられる映像や写真が、送り手の目的や意図によって取捨選択されたものであることを考えさせていく。児童にとって身近に感じられる内容であり、興味をもって読み進めるものと思われる。また、「初め」(問題提起)→「中」(問題解明)→「終わり」(まとめ)という典型的な説明文の構成で、「初め」も「中」も「アップ」と「ルーズ」を対比させてまとめる段落関係になっている。そこで、対比的な段落関係をつかみながら意味段落のまとまりを考え、段落のつながりをとらえながら読むことが容易にできる。以上のことから、本教材は、根拠を明確にししながら内容の中心をとらえたり、段落相互の関係を考えたりしながら読み取りの力を育てることができる。と考える。

「四年三組から発信します」では「アップとルーズで伝える」での学習内容を踏まえて、情報収集から発信までの活動を行う。特に集めた情報の中から相手や目的に合うものを選ぶことに焦点を当て、「アップとルーズで伝える」で読み取ったことを生かしながら内容を実感することができる。

5 児童の実態

児童は3年生の学習において「初め」、「中」、「終わり」の文章構成について学び、4年生の「『かむ』こと力」では、「中」が二つに分けられ、複数の段落がまとまって意味段落を構成することを学習した。重要語句や接続語に着目することで、要点をまとめることができるようになったが、意味段落の中心をとらえたり内容をまとめたりする力は、まだ、十分には身に付いていない。

そこで、段落相互の関係を考える中で意味段落の中心をとらえ、段落の役割に気付かせながら文章を読み取る学習活動が必要である。

6 指導にあたって

「つかむ」段階では、まず、全校児童に学校のよさを発信するという単元全体の目標と、そのために分かりやすい表現方法を読み取るという読みの目的意識を明確にさせる。校内の風景をカメラで撮り映像を見せ合うことで「アップ」と「ルーズ」についての興味を喚起させたい。次に、全文を通読して「アップ」と「ルーズ」の特徴や筆者が伝えたいことの前想を立て、詳しい読み取りの後に比較することで、自己の学習成果を認識できるようにする。

「たしかめる」段階では、まず、文章と写真を対応させながら、文章を読み取らせる。写真には、キャプション(写真を説明する短い文)をつけることで、段落の中心をとらえやすくさせたい。次に、「アップ」と「ルーズ」を対比させたり、指示語に着目して中心段落と具体例を示す段落との関係をとらえたりすることで、段落

の関係に気付かせる。また、実際の新聞でも読み取ったことと共通していることを確かめ、文章の内容を実感させる。さらに、各段落に小見出しをつけてから段落のまとまりを考え、文章全体の構成を考えさせる。

「ひろげる」段階では「つかむ」段階で撮った映像を見直し、「アップ」と「ルーズ」で写した映像を取り入れた新聞をグループごとに作る。目的に合った映像と文章表現であるか見直し、さらにグループ間で意見交流することで、相手に分かりやすく書こうとする意識を高める。最後に、単元を通して学習したことを振り返り、「アップ」と「ルーズ」についての考えをまとめる。

以上の活動を通して、確かな読み取りの力を身に付け、喜びをもって文章を読む児童を育てることができると考える。

7 指導計画と評価規準

段階	時	学習内容	評価規準 【 】評価の観点 () 評価方法
つかむ	1	・全校に向けて学校のよさを発信することを想定し、カメラで学校の風景を撮る。	【関】伝えたいことや伝える方法について興味をもち活動している。(行動)
	2	・映像の中からアップとルーズを見つけ、その意図や効果について話し合う。	【関】伝えたいことを発表したり、アップとルーズに気付いたりする。(観察・発言・ノート)
	3	・新出漢字の読み書きを学習する。 ・単元名とリード文を読み、題名読みをしてから「アップとルーズで伝える」の全文を読む。	【関】意欲をもって音読をする。(観察・発言)
	4	・アップとルーズの特徴や筆者の伝えたいことについて予想を立てる。 ・文章全体を「初め・中・終わり」に分け学習計画を立てる。	【読】既習の接続語や文章構成に着目しながらアップとルーズの特徴や筆者の伝えたいことについて自分なりの考えをもつ。(発言・ノート) 【関】単元の学習に見通しをもち、意欲をもって学習しようとしている。(発言・ノート)
たしかめる	5	・アップとルーズの意味について読み取る。(形式段落①②③)	【読】写真と文章の関係をとらえ、アップとルーズの意味を理解している。(発言・ノート)
	6	・アップとルーズの特徴を読み取る。(形式段落④⑤⑥)	【読】アップとルーズの長所と短所を読み取っている。(発言・ノート)
	7	・アップとルーズの使い方についてまとめる。(形式段落⑦⑧)	【読】アップとルーズが目的に応じて使い分けられていることを読み取っている。(発言・ノート)
	8	・各段落に小見出しを付ける。	【読】段落の内容を考えて、小見出しを付けている。(発言・ノート)
	9 本時	・段落のまとまりを考えて、段落構成図に表す。	【読】段落相互の関係を考えて、図に表している。(発言・ノート)

ひろげる	10 ～ 16	<p>○「四年三組から発信します」を読み、新聞を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材を決めて、グループごとに写真を撮影する。 ・取材して記事を書く。 ・目的に合っているかを確認め合い、清書する。 ・新聞を紹介し合い、意見交流をする。 ・校内に掲示する。 	<p>【関】自分の伝えたいことを決めて取材や新聞作りに取り組んでいる。(観察・ノート)</p> <p>【書】必要な事柄を選択して、写真を活用しながら新聞にまとめている。</p>
	17	<ul style="list-style-type: none"> ・体験を基に、アップとルーズについて考えをまとめる。 	<p>【関】自分たちの活動を振り返り、アップとルーズの特徴について感想をまとめている。(発言・ノート)</p>

本時の指導(9/17)

(1) 目標

- ・ 【読むこと】段落相互の関係を考え、段落のつながりを図に表す。

(2) 本時の具体的評価規準

A 十分満足	B おおむね満足	C 努力を要する児童への手立て
段落相互の関係をとらえ、ノートに段落構成図を書いたり図の根拠を発言したりしている。	段落相互の関係を考え、ノートに段落構成図を書いている。	これまで学習してきた段落の関係や「初め」の選択例を手がかりに考えさせる。

(3) 本時間における書く活動の位置づけ

- ア 本時は「初め」と「中」・「終わり」に区切って学習する。段落相互の関係について自分の考えをもつためにノートに書き、さらに学び合いながら大切だと思ったことを書き加えて読みの深まりを確認する。
- ・ 「初め」の段落構成図を選んでノートに書く。また、段落の内容や③の役割に着目して選んだ理由を書く。
 - ・ 「中」と「終わり」の段落構成図をノートに書く。また、指示語の役割や段落の内容に着目して構成図を書いた理由を書く。
- イ 課題に対するまとめを確認するために段落構成図を一緒に書く。
- ウ 学んだことや自分の変容を認識して次時の意欲喚起を図るために、「振り返り」でわかったことやできようになったこと、頑張ったことなどをノートに書く。

(4) 展開

段階	学 習 活 動 (○主発問)	指 導 上 の 留 意 点 (☆評価)
つかむ 5分	1 既習事項の想起をする。 2 本時の課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> だん落とだん落の関係を 考えて、図に表そう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・小見出しを確認させる。 ・段落の関係を考えることで、筆者の伝えたいことを明らかにするという目的意識をもたせる。
深 め る 33分	3 見通しをもつ。 (1)見通しをもつ。 ○段落のつながりを考える手がかりを確認しましょう。 (2)学習範囲を音読する。 4 課題解決をする。 (1)「初め」の段落構成図を選ぶ。 (2)「中」と「終わり」の段落構成図を考える。 5 課題のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の説明文では段落の初めにある指示語や接続語が段落のつながりを考える手がかりになったが、本教材では指示語や接続語の使用が少ないことから、文章の内容に着目する必要性に気付かせる。 ・「初め」、「中」、「終わり」の内容を確認する。 ・前時までにとまとめてきた要点や小見出しにふれ、文章の内容を短くまとめていることを確認する。 ・段落相互の関係を考えやすくするために、段落ごとに読ませる。 ・「順序」、「並列・対比」、「具体化・説明」、「まとめ」の4例の図から選択させる。 ・できるだけ選んだ理由を書かせ、記述を基に学び合わせる。 ・進まない児童には小見出しに着目させる。 ☆①②と③の関係を考えて段落構成図を選んでいるか。(発言、ノート) ・自分で進められない児童には④⑤と⑥の関係も①②③と同様であることに気付かせる。 ・作業が進んでいる児童には⑦の役割を考えさせる。 ・⑦をまとめに入れない図を考えた児童がいても、①～⑥を一般化する役割を果たしていることをとらえていれば、許容する。 ☆段落相互の関係を考えて段落構成図を書いているか。(発言、ノート) ・話し合ったことを基に紙板書の要点をつないで筆者の伝えたいことを確認し、「つかむ」段階の4時に書いた文章と比較して自分の読みを振り返る。

ま と め る 7 分	6 学習を振り返る。 ○わかったことやできるようにな ったことを書きましょう。 7 次の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容や学習方法、自己の変容について触れている児童の記述を紹介させる。 ・態度面の自己評価については記号で表し、挙手で確認した後頑張りを認め、次時の意欲に結びつける。 ・読み取ったことを基に新聞作りをすることを知らせ、次時の意欲に結びつける。
----------------------------	---	---

(5) 板書計画

・ 筆者の考えについてわかったこと

・ 図に表して気付いたこと

・ できるようになったこと

ふり返り

⑦

⑧

新聞・テレビ

終わり

④ アップ

⑤ ルーズ

このように

⑥ アップとルーズ

テレビ

まとめ

中

① アップ

② ルーズ

③ アップとルーズ (まとめ)

テレビ

説明

初め

だん落とだん落の関係を考えて、図に表そう。

中谷 日出

問題提示

アップとルーズで伝える

筆者の写真